あらえびす賞

音楽をきいたよ

日詰小学校　４年　鈴木　小夏

わたしは、あらえびす記念館に行き、「動物の謝肉祭」の「白鳥」と「堂々たるライオンの行進」をきいてきました。

はじめに「白鳥」をききました。「白鳥」はすごくやわらかく、やさしい曲でした。チェロをひいている人が気もちよさそうにひびかせるようにひいていました。わたしは、鳥がいっぱい飛んでいるのが頭に思いうかびました。「たくさんの鳥がいっぱい飛んでいたら、気もちいいだろうなぁ。」と思いながら聞いていました。曲を聞く前から、「ふわふわした曲かなぁ。」と思っていました。想ぞうしていた通り「ふわふわ」した曲だったので、ねむるときにききたい曲だなぁと思い、とても好きになりました。

次にきいた曲は、「堂々たるライオンの行進」です。わたしはまた、どんな曲かを想ぞうしてみました。堂々と、「ドシンドシン」と歩いているライオンを想ぞうしました。きいてみると、元気で、強くて、かっこいい曲でした。音の上がり下がりがはげしく、リズムが速い曲でした。やっぱりライオンといえば、とても強そうなイメージがあるので、元気で、強くて、かっこいい曲なのだと思いました。想ぞう通りでうれしくなりました。この曲は、やわらかいイメージの「白鳥」とは、ぎゃくだなぁと思いました。

わたしは、この二曲をきいた後、どちらにもピアノをひいている人がいることに気づきました。どちらの人も、とても上手で、白鳥やライオンを考えながら、目をつぶったり、体を動かしたりしてひいていました。わたしも、ピアノをひきます。しかも、「堂々たるライオンの行進」をきいた時、「あっ、ひいたことがある曲だ。」と思いました。この曲をひいていた時は、あまりライオンの行進のことをいしきせずにひいていました。しかし、ライオンが行進することを思いうかべながらひいたなら、もっと楽しそうだなぁと思いました。また、二つの曲の中で、弦楽器が使われていました。わたしはトロンボーンをふいています。いつか弦楽器もひいてみたいなぁと思いました。

あらえびす記念館では、二つの曲を作ったサン・サーンスについても教えてもらいました。フランスで生まれ、三さいでピアノ曲をつくり、十さいでピアノえんそう家としてステージに立ち、早くから音楽のさいのうをあらわした人だそうです。わたしもピアノをならっていましたが、三さいで曲をつくり、同じ十さいでステージに立つなんてすごいと思いました。「動物の謝肉祭」は十四曲からなる作品で、ゾウやカメなど、いろいろな動物が登場するそうです。白鳥やライオン以外の曲もいっぱいきいてみたいと思いました。そして、いろいろな動物をそうぞうしながらきいたら、もっと楽しいと思います。

あらえびす記念館では、わたしの好きな音楽についてたくさん知りました。これからも、いろいろな曲をきいたり、ひいたりしてみたいと思いました。

曲名　組曲「動物の謝肉祭」から
　　「白鳥」「堂々たるライオンの行進」
作曲　サン＝サーンス

審査員講評

あらえびす賞感想文について

小夏さんは、ピアノで「サンサーンス」を弾いたことがあるなんて、素敵ですね。感想文から、鑑賞（かんしょう）した時のわくわくした気持ちが、とてもよく書けていました。

想像を膨（ふく）らませて演奏することで、曲の表現に役立ちます。「白鳥」はふわっとした優しいタッチで優雅（ゆうが）に鍵盤（けんばん）を弾（ひ）いたり、ライオンの行進は力強くなど、聴く人をあっと驚（おどろ）かせるような演奏になるでしょう。想像豊かにこれからも、聴いてみてください。

教育長賞

一つの曲の中のいろいろな場面

古館小学校　3年　佐藤　浩介

家のガスきゅうとうきには、「おふろがわきました。」とお知らせしてくれる音があります。その曲がT・オースティン作曲の「人形のゆめと目ざめ」でした。かわいいメロディーが気になってどんどんすきになりました。

ぼくは一年生の冬からピアノを習っているので、先生に

「ひいてみたいです。」

と、そうだんしました。先生は、すぐにさんせいしてくれたので、練習することになりました。

はじめて曲名を聞いた時は、人形はねむることもないし、目ざめることもないのでふしぎだと思いました。

じっさいにピアノをひいてみると、この曲には四つの場面があることがわかりました。

一つ目は、人形がベットでゆめを見ながらねむっている場面です。ゆっくりきれいなメロディーなので、明日が楽しみな気持ちでねむっている人形を想ぞうしました。右手でひくい音をポーン、ポンポーンと鳴らすところは、人形がゆっくりおきたところだと思います。

二つ目は、人形がさんぽをしている場面です。一つ目の場面にくらべてとても楽しそうな感じがしたので、スキップをしながらさんぽをしていると思いました。左手のリズムは、犬がピョンピョン歩くみたいだと思いました。人形といっしょに犬もさんぽをしているように感じました。このメロディーのさいしょのところがかわいい感じがして一番すきです。

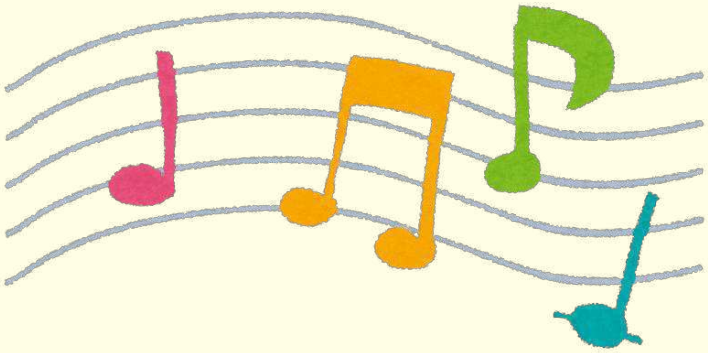
三つ目は、人形が朝ごはんを作って食べている場面です。リズムにのって楽しくりょうりをしている様子が思いうかびました。おいしい目玉やきを作っていると思います。

四つ目は、人形がおでかけをしている場面です。強弱が二小せつずつかわるところが、なんだかいそいでいる感じがします。そのあとの十六分音ぷがどんどんいそいでいる感じがして一番もり上がっていると思います。人形は、

走って買い物に出かけたのかと想ぞうしました。

　このように、いろいろな場面が想ぞうできるのでおもしろい曲だと思いました。さいしょはふしぎだと思っていたけれどリズムによって人形が行動するところがわかります。もっとほかの曲も音やリズムに気をつけて想ぞうしたらおもしろそうだと思いました。ぼくも場面に気をつけてえんそうしたいです。

曲名　人形の夢と目覚め
作曲　T．オースティン



優秀賞

シンコペーテッド　クロック

紫波東小学校　1年　さくやま　みづき

プーというらっぱのおと。カッコー、カッコーというリズム。なんかきいていると、きもちがよくなってくる。

あれ、だんだんおんがくが大きくなってきたよ。チリリンっておともきこえてきた。なんかパーティーをひらいているみたい。おひめさまのたんじょうびパーティーかな。みんなできょくにあわせておどりをおどっているようすがおもいうかんできたよ。おひめさまとおうじさま。そしてパーティーにしょうたいされたおきゃくさんたちがみんなでおどっている。

ふしぎだな。きいていると、どんどんたのしいきもちになっていく。わたしも、たんじょうびパーティーにさんかしているようなかんじ。

わたしのたんじょうびは、9がつだったんだよ。かぞくみんなでおいわいしたんだ。みんなでケーキをたべてたのしかった。たんじょうかいのときにこのきょくをながしたら、もっともっと、たのしくなったかもしれないな。わたしとおとうとがいっしょになってダンスをおどるの。おとうさんとおかあさんもいっしょにダンス。おんがくって、みんなをたのしくさせる、ふしぎなちからがあるんだね。

カッコー、カッコーときこえてきたおと。ウッドブロックっていうがっきなんだって。わたしもたたいてみたら、リズムにのってきて、わくわくしてきたよ。もっといろいろなリズムをたたいてみたくなってきちゃった。

カッコー、カッコーのきょくのだいめいは「シンコペーテッド　クロック」ってせんせいがおしえてくれたよ。クロックってとけいのことなんだって。12じになったら、パーティーのおわりのかねがなるのかな。

「シンコペーテッド　クロック」これからもきいていきたいな。ずっとわたしのこころをたのしくしてくれるきょくだから。

曲名　シンコペーテッドクロック
作曲　アンダソン

優秀賞

ぼくにとっての「エリーゼのために」

赤石小学校　5年　神　壮哉

ぼくが、「エリーゼのために」と出会ったのは、今から二年ぐらい前だ。初めて聞いたとき、「とてもいい曲だなあ。」と思い、ちょうど妹がピアノを習っていたので、時間があるときに「エリーゼのために」を練習してみた。その様子を見ていたお母さんから、「ピアノを習ってみれば？」と言われ、妹が通っているピアノ教室に習い始めた。

ピアノ教室で習い始めると、ピアノについてのいろいろな知識が覚えられ、知らなかったことをたくさん知ることができる。「エリーゼのために」は、ベートーヴェンの死後、四十年後に数人の手にわたって、一八六七年に公開された。ベートーヴェンが三九才だった、一八一〇年に作曲されたものだ。教え子のテレーゼにおくられた曲と言われているが、近年になり、「エリーゼのために」は、エリザベート・レッケルという歌手のために作られたものではないかという説もあり、本当のことは分からない。

ぼくは、「エリーゼのために」に関係していることを調べて、世界中の人たちにベートーヴェンが「エリーゼのために」にこめられた思いを伝えていきたいなあと思うようになった。みんなにも、ベートーヴェンの気持ちを感じてほしいと思っている。

ぼくが「エリーゼのために」をひいていると、楽しい気持ちや悲しい気持ちになったりするので、「ベートーヴェンのいろいろな気持ちが、こめられている曲なんだなあ。」と感じることができる。

こんなことを感じながら、「エリーゼのために」を毎日練習したことで、最後までひけるようになった。ちょうどそのころ、ピアノの先生から、

「「エリーゼのために」の新しい楽ふが、出てきたみたいだよ。せっかくだから、新しいのも練習してみる？」

と言われ、練習した。そしてついに、新しい楽ふでも、ひけるようになった。

ピアノの先生から、

「この曲は、壮哉さんのテーマ曲ね。何かあったときひいたら、力になって

くれるはずだよ。」

と言われ、とてもうれしくなった。

今度ぼくは、初めてピアノ発表会に出演する。そのとき、この「エリーゼのために」をひく予定だ。この曲にこめられたベートーヴェンの思いや自分が感じている思いをこめて、一生けん命練習している。本番では、最高のえんそうができるようにしていきたいと思う。

ぼくにとっての「エリーゼのために」とは、楽しい気持ちや悲しい気持ち、情熱が合わさったものだ。そして、ぼくに、ピアノの楽しさや面白さを教えてくれたベートーヴェンに感謝の気持ちでいっぱいだ。

「ベートーヴェンさん、ありがとう。」

曲名　エリーゼのために
作曲　ベートーヴェン